

せひ

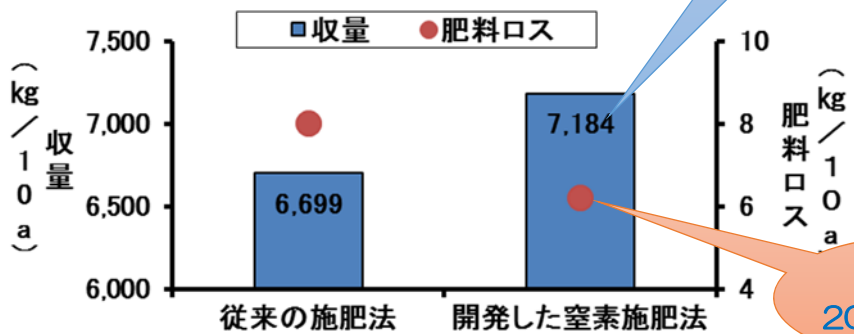
たまねぎ安定生産のための新たな施肥技術の開発

背景

近年の異常気象に伴う多雨により、肥料が畑から流れ出てしまい（肥料ロス）、生育に必要な養分が不足することで、たまねぎの生産が不安定となっています。また、肥料ロスは地下水汚染などの原因の一つとなります。

成果

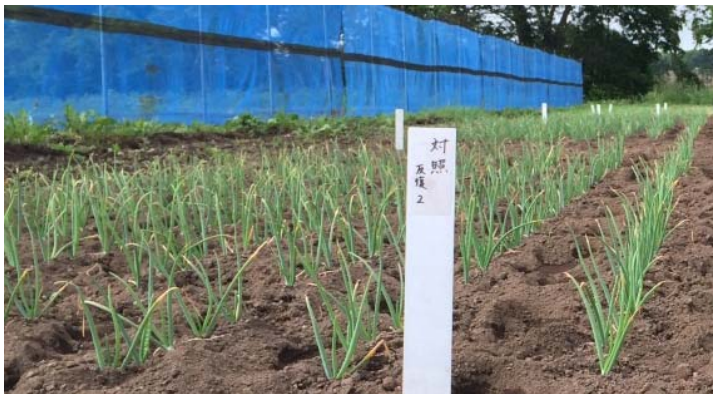
1 新たな窒素施肥法を開発しました



- 開発した窒素施肥法では、必要な肥料の量の2/3を苗を植えるときに、残りの1/3をその4週後に、2回に分けて施用します。
- 多雨時だけでなく、降水条件が変わっても安定して多収で、肥料に含まれる窒素のロスも少なくなります。

2

新たな窒素施肥法と改良リン酸施肥法との組み合わせで、より一層の安定生産が可能です



従来の施肥法



苗を植えてから1カ月目の生育状況

組み合わせた場合

- 開発した窒素施肥法を、すでに現場で実践されている「リン酸施肥法の改良によるたまねぎの生育促進技術（平成25年 普及推進事項）」と組み合わせると、相乗効果によって初期生育が向上し、より一層の安定生産が実現できます。

期待される効果

- たまねぎの安定生産と環境負荷低減対策として活用
- 特に、北海道が推進する「クリーン農産物」の生産技術として有効
- 収量の増加に伴い、生産物当たりのコストも低減